



# BOY SCOUT NAKANO 7





BOY  
SCOUT  
NAKANO 7

SPIRITS FOREVER





PADDLE YOUR OWN CANOE—LOOKING AHEAD. IF YOU LET YOURSELF BE ROWED BY OTHERS, WITH BACKS TO THE DANGER, YOU MAY GET WRECKED.

君達のような若い人には、社会に出たら自分たちは群衆の中の一片にすぎないと考え、だから、ほかの者と一緒に漂流していれば万事うまくいくと考える傾向がある。これは、きわめて悪い態度である。あなたは、あなたであることを忘れてはならない。あなたは自分の人生を生きているのだ。もし、君が成功を欲するなら、また幸福になることを望むなら、それをつかむのは君なのです。君に代わってつかんでくれる者はどこにもいない。「涙を流したり、顔をしかめていてもしかたがない、さあ、自分のカヌーは自分で漕ぐんだ」君たちはいろいろな苦難と危険にであうだろう。途中では浅瀬や嵐にもあうだろう。けれども、およそ危険の伴わない人生というもの、だらしのないものだ。注意周到的な水先案内、公明正大な航行と快活ながんばりによるならば、君の船旅が完全に成功しないという理由はない。君がスタートをおこした小川は、それがどんな小さかろうと問題ではない。

「ローバーリング ツウ サクセス」より抜粋





## “B.-P’s.” LAST MESSAGE



**D**ear Scouts,—If you have ever seen the play “Peter Pan,” you will remember how the pirate chief was always making his dying speech because he was afraid that possibly when the time came for him to die he might not have time to get it off his chest. It is much the same with me, and so, although I am not at this moment dying, I shall be doing so one of these days and I want to send you a parting word of goodbye.

Remember, it is the last you will ever hear from me, so think it over.

I have had a most happy life and I want each one of you to have as happy a life too.

I believe that God put us in this jolly world to be happy and enjoy life. Happiness doesn't come from being rich, nor merely from being successful in your career, nor by self-indulgence. One step towards happiness is to make yourself healthy and strong while you are a boy, so that you can be useful and so can enjoy life when you are a man.

Nature study will show you how full of beautiful and wonderful things God has made the world for you to enjoy. Be contented with what you have got and make the best of it. Look on the bright side of things instead of the gloomy one.

But the real way to get happiness is by giving out happiness to other people. Try and leave this world a little better than you found it, and when your turn comes to die you can die happy in feeling that at any rate you have not wasted your time but have done your best.

“Be prepared” in this way, to live happy and to die happy—stick to your Scout promise always—even after you have ceased to be a boy—and God help you to do it.

Your friend,

*Baden Powell of Gilwell*





### 最後のメッセージ

親愛なるスカウト諸君 —— 君たちがもし「ピーターパン」の劇を見たことがあるならば、海賊の頭目がいつも遺言を口にしていたことを思い出すでしょう。それは彼の死期がきたとき、手箱から遺言状を取り出す時間がないかも知れないことを恐れたからです。私の場合もそれと同じで、今、私は死ぬわけではないのですが、死ぬ日がくることを思って、君たちにさよならの一言を送りたいと思います。

これは、君たちが私から聞く最後のものだと思ってよく読んでください。

私は最も幸福な生涯を送りました。ですから君たち一人一人もまた幸福であるように私は祈ります。

神様は私たちを、幸福で楽しい人生を暮らせられるよう、この世に下し給うたのだと私は信じます。幸福というものは、お金持ちになったり、単なる立身出世や栄達に成功したり、思いどおりわがままができることではありません。幸福になる第一歩は、君たちの身体を、少年のうちに健康かつ強壯にすることに始まります。そうすれば君たちが大人になったときお役に立つことができ、それ故に人生を楽しむことができるのです。

自然研究は、神様が君たちの快樂のために創造されたこの世界が、美と驚異に満ちていることを君たちに教えるでしょう。君の得たものに満足し、そしてそれを最善なものにしなさい。物事の暗い面を見ないで明るい面を見なさい。

けれども、幸福を得る本当の道は、他の人々に幸福を与えることによって得られるものです。君たちの見いだした世界よりも、多少でもこの世界をよいものにし、後に残すのならば、君たちの死ぬ順番が回ってきたとき、自分は自分の最善を尽くしたのだから、とにかく、時を無駄にしなかったという、幸福を感じながら満足して死ぬことができます。

幸福に生き幸福に死ぬために、この道に「そなえよつねに」 —— いつもスカウトのちかいを堅く守りなさい —— 君たちが大人になった後でも変わることなく —— 神よ、君たちのすることにご加護あらんことを。

君たちの友

ベーデン・パウエル・オヴ・ギルウェル





## 発団40周年に思うこと

### 21世紀に生きるスカウト諸君へ

中野第7団 団委員長 高橋 宏 人

三指

中野区の江原公園で開催した「発団30周年記念式典」から早いものでもう10年が過ぎ、ここに40周年を迎える事が出来たことを、中野地区関係各位、並びに中野7団関係各位の皆様深く感謝すると共に、この誌面をお借りして私の「スカウト活動」への真の思いを申し述べることにより、21世紀を生き抜くスカウト諸君の心の支えになれば幸いです。

1965年(昭和40年)6月、この中野区新井の地に当時、西部地区コミッショナーであられた武田先生をはじめとする先達の温かいご支援により、東京第257団(現中野第7団)が誕生いたしました。

それから40年間、スカウト及び指導者の減少傾向をはじめとした山あり谷ありの種々の難問を多々乗り越え、とにかく挫折せずに40年という通過点に到達することが出来ました。

その継続性を支えてこられた力の源泉は一体何であったのでしょうか。

勿論、スカウトのご家族の皆様、地区役員の方々、その他大勢の皆様のご支援及び7団指導者のたゆまぬ努力に支えられてきたことは言うまでもありませんが、更に見えてくるものは「中野7団の精神」が根底に脈々と40年間流れ続けていた事実であります。

では「中野7団の精神」とは何でしょうか。

ボーイスカウト運動の創始者であるベーデンパウエル卿が「奉仕の精神」を基軸として、パウエル卿の「最後のメッセージ」の中で述べられている「幸福を得る本当の道は、他の人々に幸福を与えることによって得られるものです。」との一節がありますが、まさにそれが真髄であります。

そして、この何十年間「ベーデンパウエル卿の精神：BP SPIRITS」を基本精神に、少々中野7団として肉付け「中野7団の精神」としてスカウト諸君にいろいろな場面で言い続けてまいりました。

しかしながら、言うは易く行うは難しの諺のとおり、努力すれどもなかなか「BP SPIRITS」の伝承及びその効果が思ったほどスカウト諸君に現れてこない事実日々疑問に思い続けておりました。

そこで、今回の40周年を機会に「中野7団の精神」を一度ボーイスカウト活動の基本に立ち返り整理してみる必要性を感じ、ここに新たに「中野7団の精神」を私なりに体系立てて再構築し、分かりやすく皆様にお示ししたいと思いました。





## 新「中野7団の精神」

### 第一の目標

まず、基本となる精神はベーデンパウエル卿の著書にあります「ローバーリング ツー サクセス」の中で述べられている「自分のカヌーは自分で漕げ」であります。

これは、目標を定め自分に迫りくる難関に出会った時、他人任せにせず自分の力で漕ぎ抜くことであり、健康な肉体に支えられた「自己の確立」を目指すものと解釈します。

つまり、自分に課せられた責任を自らが果たし、他人に迷惑をかけずに生きることを目標に置くことです。

### 第二の目標

次に、自己の確立が出来てくると「人の心の痛みがわかる人」、「人の喜びが素直に喜べる人」、「人に対して優しさや思いやりがもてる心豊かな人」に自然と近づき他の人々を幸せに出来る力がついてきます。

では「他の人々を幸せにする」とは一体どういうことなのでしょう。

これは、誠に難しいテーマで「過去、誰も明確な答えを出した人はいない。」と思っています。

貧しい人々に金品を与えることが、飢えで死にそうな人々に食物を与えることが、戦争を止めさせ平和な世界をつくることか、科学技術の発展に貢献し世の中を住みやすくすることか、医者となり世の中の病をなくすことか、犯罪を止めさせ安全に暮らせる国をつくることか、国連か、ユニセフか、NPO か……。

何を選んでも「他の人々を幸せにする」ことに近づきますが、実際に行動に移すにはそれなりの努力と忍耐力が要求され、かなりの覚悟が必要となります。

そこまで覚悟しないと「他の人々を幸せにする」ことが出来ないのでしょうか。

私はその様なことはない我常常と思っています。

ではどうすればよいのでしょうか。

ボーイスカウトの世界からちょっとそれますが、あのマザーテレサの言葉の中に「この世の中の最大の不幸は、貧しさや病ではない。むしろ、そのことによって見捨てられ、誰からも愛されず自分は必要とされていないと感じている人々に自分のことを気にかけてくれた人間もいたと実感させることが大切な事です。」とあります。

私はこの言葉により「他の人々を幸せにする」鍵を見出しました。

この地球上で生命を与えられて存在意義のない人々はいないはずであり、様々な理由で困っている人々、周りから見捨てられている人々、誰からも愛されていない人々に対して「そんなことはないよ」と、





ちょっとした励ましの言葉をかけてあげるような小さなことで人々を救うことが出来るきっかけになると思ったのです。

このことが、人種も、宗教も、国籍も、言語も、肌の色も、お金持ちも、貧しい人々も全ての枠を超えて人々を幸福にすることが出来る唯一の出発点であると確信しました。

つまり、「他の人々を幸せにする」ことは、あまり大袈裟に構えず、日々、周りにもし何らかの理由で困っている人々、周りから愛されず世の中から必要とされていないと思っている人々がいたら、まず声をかけて励ましてあげることから始めることです。

それは物品ではなく心(愛)を伝えることなのです。

### 第三の目標

そして、ベーデンパウエル卿の真髄である「最後のメッセージ」に述べられている「幸福を得る本当の道は、他の人々に幸福を与えることによって得られるものです。」につながります。

ちょっとした他の人々への励ましの声掛けが幸せを与えるきっかけとなり、そのことにより自分自身もとても気持ちが満たされすがすがしくなり幸せを感じる事が出来るはずで。

また、メッセージの中に「最後に君たちの見出した世界よりも、多少でもこの世界を良いものにし、後に残すのならば、君たちの死ぬ順番が回ってきたとき、自分は自分の最善を尽くしたのだから、とにかく、時を無駄にしなかったという幸福を感じながら満足して死ぬことができます。」とあります。

これはボーイスカウトに限らず地球上の人類全てに対して言えることで、この世に命を与えられた人々が目指す真理であると思っています。

中野7団からこのような精神を持ったスカウトが一人でも多く育ち、世の中を今より多少でも幸せな世界にすることに尽力するならば必ずや自分自身も幸せになることが出来ると思います。

最後に、中野7団の皆でこの「中野7団の精神」をこれから更に高揚させ次世代に伝承してゆくことこそが、ボーイスカウト中野第7団に与えられた使命と思い「21世紀に生きるスカウト諸君へ」の私からのメッセージといたしたいと思います。

弥栄







## 四十周年を 祝して

中野地区協議会長 松尾宗明

日本ボーイスカウト東京中野第七団の四十周年を心からお慶び申し上げます。

中野七団がシニアを基幹として異色の発団をした事は、現在のしっかりとした七団を作る基に成ったものと思います。高橋団委員長以下全指導者が、スカウト出身者であると言うのは、中野地区内で唯一この七団だけです。七団のスカウト教育、スカウト訓練は、その内容に目を見張るものがあります。ちょっとやさそとでは、他の団が追いつけないのではないのでしょうか。

高橋団委員長を中心としたリーダーが一丸となり、スカウトの指導に異常な程の熱意を持って当たられている姿は、羨ましくも在り他の団にその一部でもよいからお裾分けしてくれたらなあと、私なりに虫のいい考えを持ったのは一人だけでしょうか。

『栄光の七団』は、他の団から見ると『羨望の七団』ではないのでしょうか。七団のスカウティングは、他の団に見られない独特の雰囲気というか、ムードがある様に見受けられます。これもスカウト上がりのリーダーで指導者が構成されているせいでしょうか。

指導者のスカウトに対する接し方は、肉親と同じかそれ以上のものがある様に見られます。親が子供を、兄姉が弟妹をという感じが外から見ても感じられます。それだけ七団全員の絆が強く結ばれているのだと思います。

『活気』と『団結』の七団が、中野地区全体をリードし、中野地区のスカウティングの先頭に立って引っ張って欲しいと期待しております。

中野七団の弥栄を記念し、四十周年のお祝いの言葉と致します。





BOY  
SCOUT  
NAKANO 7

## 発団四十周年を祝して

ボーイスカウト日本連盟評議員・東京連盟参与

中野地区協議会副会長 田口 榮三

日本ボーイスカウト中野第七団が発団四十周年の節目に到達されたことを心よりお喜び申し上げます。  
ご存じのようにボーイスカウト運動は青少年の人生の大切な時期に仲間と集団生活を通して、社会性・創造性・責任感や協調性などを体験によって身につけ、人格を高め育てていくものです。

そのようにスカウトになってもらうために、中野第七団の指導者も良いプログラムを計画し作成し、スカウトを支援するように努め、スカウト達も一人一人が一步一步より成長するように頑張った活動が着実に行われた結果、団が永続し四十周年の喜ばしい記念する日を迎えたのだと思います。

又、指導者、スカウトのみならず、それ以外の団関係者、スカウトの保護者と地域の方々のご理解とご援助をいただき、困難を乗り越え解決してきた賜によるものと思います。

これからも、更に今までの経験を力と情熱として、一層活発な貴団の躍進を期待し、弥栄をおくります。

SPIRITS FOREVER





## ボーイスカウト中野第7団発団40年おめでとう

中野地区委員長・中野第2団団委員長 田尻紀夫

ボーイスカウト中野第7団の皆さん発団40年おめでとうございます。団が生まれて40年、中野第7団は一番脂の乗り切った壮年期を迎えています。これまで団の指導者の皆さんはいろいろの喜びや苦勞があつてこの期を迎えたことと思います。現在の隊員の皆さんはその中で伸び伸びと育っています。さらに、地区の運営にも多大な協力を頂いています。本当におめでとうの気持ちとありがたい感謝の心で一杯です。

ボーイスカウトは自然や社会の中で自分が体験して学んでいく、自発活動です。その中でグループをつくり社会のスカウトとしてのルールを自分から守る活動です。自分で自発的に活動に参加する、そのためにはアイデアを練り、計画を作り、実践して、評価反省をすることが一人一人にとって、またグループにとって大事になってきます。そのためには周りの指導者や保護者の意見や忠告をよく聞く必要があります。そうしないと独りよがりの活動になってしまいます。これからも、より素晴らしいプログラムを展開し、青少年が伸び伸びと成長していくように、そして地区の運営にもお力添えを頂きたいと思います。

これからの貴団の発展を祈念しお祝いの言葉といたします。

発団40年弥栄！





## 40周年を祝して

中野地区コミッショナー 伊藤英男

ボーイスカウト中野第7団の発団40周年をお祝い申し上げます。

一言で40年間として括るのは簡単ですが、しかしこの40年間にはさまざまな時が刻まれています。

昭和40年に東京257団として発足し、スカウト数も増加の時期でした。カブ隊、ボーイ隊それぞれが二個隊編成となることもありました。当時は西部地区（中野区と杉並区で形成）に属していましたが、昭和53年には中野と杉並が別れ中野地区に変わるとともに現在の中野第7団と名称も変わりました。

その時々においてさまざまなことがあったと思います。その都度、スカウト・指導者には戸惑いがあったことでしょう。この様な時期においてもスカウト運動の精神を守り、スカウト運動の目的にむかって多くのスカウトを育てあげ、そして多くの青年を社会に送り出して来ています。そこには、スカウト運動に魅力を感じ、そして心を引かれた多くの成人指導者がいたことと思います。

バーデン・パウエルがスカウト指導者に対してのメッセージの中に「この運動を進めていく上において、諸君のごとき成人指導者の協力を得たことを感謝しなくてはならない。諸君は常に目を見開いてよき後継者をさがし、かがり火を受け継がせねばならない。この運動は愛国精神による任意の運動であり、俸給取りの組織としてはならない。」と記されています。

近年、核家族化が進み児童の減少が加速しています。このことは、中野地区内においても然りです。そして、社会における青少年を取り巻く環境はいちじるしく変化してきています。このような時代だからこそ、ボーイスカウト運動の良さを継続し、青少年に対する一貫教育を進めて行って下さい。

最後に発団40周年を迎えられ、ボーイスカウト中野第7団の活動が益々充実し、活発に展開されますよう祈念し、お祝いの言葉といたします。

弥栄。





BOY  
SCOUT  
NAKANO 7

# 隊長の言葉



SPIRITS FOREVER





## 中野7団ビーバー隊

ビーバー隊々長 木村一英

### 三指

中野7団にビーバー隊が誕生したのは、1998年9月6日でした。事前募集で4名の女子スカウトが集まりましたが、当日は1名欠席で3名の隊集会は、雨が降るかもしれないような天気の中始まりました。最初のセレモニーをやっている最中に、男の子の兄弟が参加してきました。その後は、徐々にですがスカウトが増えて行きました。

中野7団は40周年を迎えましたが、30周年の時と比べ団の形が変わったこととして、「女子スカウトの加入」と「ビーバー隊の創設」が挙げられると思います。今ではどちらの事象も、7団の隊集会上では当たり前前の光景になりました。ビーバー隊を作る時、ボーイ隊やカブ隊が大変協力してくれました。7団の中に変化に対し積極的に挑戦する、若さがあったと思います。そして、保護者の方々のご理解も加わり、今日まで大変順調に活動ができていると思います。

ボーイスカウトは、野外生活を通じ「良き社会人、国際人の育成」をすることが目的です。良き社会人となるため、ビーバー年代では挨拶と友達と仲良くできる事に重点を置いています。「挨拶」は、動作の基本であり、一日の始まり、終わりを明確にして気持ちよく暮らすために必要な事です。「友達と仲良くできる」ことは、ルールを守り、他人を思いやる気持ちを持つことにつながり、主にゲームなどで養われます。この2点を重点に、ボーイスカウト活動の入り口となるビーバー隊を今後も運営して行きたいと思っています。

近年の子供たちを取り巻く環境が、大変危険なものになっています。その危険な原因の多くが大人によるものです。良き社会人を育成すれば、それだけ悪い大人が減ると信じています。そのために、我々大人がもっと研鑽し、スカウトたちが憧れるような存在となる努力が必要です。リーダーは自分に目標を持ち生活することが重要ですし、保護者の方もお子さんとふれあう中で不安や疑問がありましたら、我々リーダーたちと一緒に話し合ってみてはいかがでしょうか。





## ボーイスカウト活動の魅力

カブ隊々長 本澤 義徳

ボーイスカウト運動はとても魅力のある運動である。私は、その魅力に惹かれて活動を続けてきているのだが、根底にあるのはなにか。

一つは、ボーイスカウト活動が好きであるということ。野外に出てキャンプをしたり、自分ひとりでは到底成し得なかったことを、班、または隊という組織で見事達成したときの喜びを感じられること。これに尽きると思います。自分がスカウトのころには、丸太で三脚塔を作るのが夏キャンプでのプログラムの一つでしたが、一人でも縛りが甘いと三脚塔は立つこともできずに崩れてしまいます。一人ひとりが自分の役割を果たすことによって、大きな三脚塔が出来上がるのです。初めて三脚塔を完成したときの喜びは今でも忘れることができません。

もう一つは、さまざまな「仲間」ができることです。ボーイスカウト活動をしていなければ話すこともないような人々と「仲間」になれるのです。高校生のときに「日本ベンチャー大会」に参加したが、名も知らぬ青年たちと会ったときから打ち解け、良い思い出を作ってしまう。このような集団はとても珍しいと思います。

カブスカウト隊の隊長を仰せつかって1年半になりますが、ボーイスカウト活動を通じて、「達成感」「仲間を大切にする心」を伝えられればと思っています。

最後になりますが、自分に魅力あるボーイスカウト活動を伝えてくれたボーイスカウト関係者に感謝したいと思います。





## 40周年を迎えるにあたり

ボーイ隊長 小林 央之

「40周年記念か、この前30周年だよなあ、」というのが、40周年を迎えるに当たっての僕の第一印象である。

自身のこの10年間を省みると「ボーイ」・「生活」・「仕事」の3つのフィールドしか思い浮かばない。この3つは自身にとっての「三権分立(?)」みたいなもので、どれかひとつを欠いても、現在の自分が成り立たない、というように感じる。また、順位付けをしる、といわれても順位付けができないものが3つ並んでいる、と感じる。

その時々により「3つ」が、バランスの中で、どれかが重くなり、どれかが軽くなることがある。そのバランスをとりながらすごしてきた10年間であったと思う。その中で、さまざまな失敗もしてきたが、その経験を自身としての「成長」につなげることができたこともたくさんあった。自分を成長させてくれる経験を与えてくださったすべての方に「感謝」をささげたい、とおもう。

その経験は、「ほぼ全期間雨天に見舞われたキャンプ」、「またボーイ!という妻の視線」、「連日深夜までの仕事」であったりさまざまであるが、その「苦しい経験」が、振り返ってみると「身につく経験」であると思う。その「苦しい経験」から反省が生まれ、次の機会への準備となり、次に同じ事象が発生した際には「普通のコト」になっている。と、次回には「もっと苦しい経験」に必ず襲われるのであるが。

はなしが横道にそれたが、「苦しい」から、解決法を「考え」、その事象に「対処」し、その結果が得られ「自信」になるのだと思う。このプロセスが「成長」であると思う。

そういった「成長」を積み重ね、よりよき社会人へと自ら「成長」してゆく人間になるように導くことが「7団スカウティング」であるとおもう。

ここまで書いてきて自分としても「ずいぶんえらそうなことをいっているな」と感じる。僕自身が「7団スカウティング」の完璧な実践者でもなく、社会的な成功者でもない、また立派な教育者でもない。が、僕も「7団スカウト」として「7団スカウティング」の実践を心がける気持ちを持っている。スカウトから「隊長」と呼ばれたときに「一社会人として」自信を持って「はい!」と答えられる人間になりたい、という思いでこの10年間を過ごしてきたように思う。

この文章を50周年の時、つまり10年後に読み返したときに自分が恥ずかしくないように「7団スカウティング」の実践に努めてゆきたい。

「7団への感謝の気持ちにかえて-----小林央之」







## 中野 7 団 4 0 周年に寄せて

ベンチャー隊長 相澤 善正

中野 7 団発団 4 0 周年、誠に感慨深く思います。「火を絶やすな」という歌がスカウトソングにあり、私の好きなうたでもあります。7 団の 4 0 年間灯続けた火が赤々と燃えている様が目に浮かびます。私もその火を燃やす薪の一本であったと思います。

心に残る [言葉] があります。残ると言うより、脈々と流れている血や息のようなものでしょうか。それは「ガッツ」と「情熱」という言葉です。

小 6 の日光小倉山の夏キャンプ、身体の小さかった私にはつらかったです。水汲みが泣ける場所だったと記憶しています。最後の夜の営火の夜話で高橋隊長は、「[ガッツ] を持ってがんばれ」と言われました。

シニアを卒業してリーダーになった年、「リーダーって何?」と空を掴んでいた時、リーダー会議の席上で高橋団委員長は、「リーダーは [情熱] をもってスカウトに当たらないと [ダメ] なんだよ」と言われました。

いずれも、生ぬるい自分を鼓舞する意味が込められていたのでしょう。しかし、なぜかこの二つの言葉が深く心に刻まれ、その後いろいろな場面で思い出されるようになりました。今にして思えば、この二つの言葉の意味を考え続けることが、大袈裟でなく私の人間を形作ってきたのだと思っています。

中野 7 団 4 0 年の中で、私の [薪] は上記のようなもので、他にたくさんのたくさんの人の情熱が、その火を燃え上がらせています。未来永劫この火は絶えることがないでしょう。なぜなら、「情熱」がこの団を支えているからです。





## 発団40周年に思うこと

Boy Scout ALA な人々に

ローバー隊々長 三澤正一

私は7団に入団して今年で37年目を迎えました。その間にカブ、ボーイ、シニア隊(当時はビーバー、ローバー隊はありませんでした)の活動を通じて思うことを少しこの40年誌に寄せたいと思います。

### 1. その気にさせる

リーダー(特に隊長)はリーダーという役割、仕事をいかにこなすかということの他に、しなければならぬ事があると思います。それは他者への「働きかけ」ではないかと思われます。または「動機づけ」と言いかえても良いかもしれません。「動機づけ」とは人の心を動かすことです。それは、スカウトであれ、誰であれリーダーは「その気にさせる」という重要な仕事があるのです。人の心を動かしてこそ行動という形につながる事が活動できるのではないのでしょうか。それはボーイスカウトの運動だけに限ったことではないように思えます。

### 2. バーナード・ショーの言葉より

ここでバーナード・ショーの言葉を紹介いたします。

『人生の真の喜びとは、次のようなものである。』

偉大であるとあなたが信じる目的のために使われる人生。自分が幸せになれないのは、周りの人や環境のせいだと愚痴ばかり言っている、不平不満でいっぱいの自分勝手な存在であるよりも自然のままに生きる人生。私は考える人である。私の人生は社会全体のためにあるのであり、それを良くするためにできる限りのことをするという事は、私が生き続けるかぎり、私の名誉となるであろう。私は死ぬとき、やるべきことはすべてやりつくしたと感じて死んでいきたい。なぜならば、それが大変であればあるほど、私は生き生きとできるのだから。私は人生そのものを楽しむ。私にとって人生は、短いうそくのようなものではない。むしろ、私がほんの一瞬の間だけ持つことを許された大きなたいまつであり、私はその火をできる限り明るく燃やし続けて次の世代に手渡すのである。』

この言葉は、いかがでしたか？

今後も我々中野7団はボーイスカウト運動を通じて自分の潜在能力を開発・活性化し、人を育てるといふ有意義な活動を行っていきます。そして、この運動の発展のために皆様のさらなるご理解とご協力を頂きたいと思っております。





BOY  
SCOUT  
NAKANO 7

# 各隊の 素顔



SPIRITS FOREVER





BOY  
SCOUT  
NAKANO 7



# ビーバースカウト隊

## ビーバースカウトのやくそく

ほく(わたし)はみんなとなかよくします  
ビーバー隊のきまりをまもります

## ビーバースカウトのきまり

ビーバースカウトは げんきにあそびます  
ビーバースカウトは ものをたいせつにします  
ビーバースカウトは よいことをします

## ビーバースカウトのモットー

なかよし

SPIRITS FOREVER





# カフスカウト隊

## カフスカウトのやくそく

ぼく(わたし)はまじめにしっかりやります  
カフ隊のさだめを守ります

## カフ隊のさだめ

- 1 カフスカウトは すなおであります
- 2 カフスカウトは 自分のことを自分でします
- 3 カフスカウトは たがいに助けあいます
- 4 カフスカウトは おさなうものをいじります
- 5 カフスカウトは すずんでよいことをします

## カフスカウトのモットー

いつも元気





カブ式新聞 号外 平成17年12月23日(金)

# 号外 カブ式新聞

祝☆中野7団40周年の巻～10年後のわたし～

わが中野7団、めでたく40周年を迎えました。めでたいことじゃ！  
現役のカブスカウト隊も40周年の歴史のひとこまを担っているわけで、  
記念すべき40周年の年！どんな顔ぶれがそろっているのか、とくにご覧あれ。  
みんな本当にいい表情してますねえ。10年後も楽しみじゃ！

カブスカウトは  
すなおであります





# ボーイスカウト隊

## ちかひ

私は、名誉にかけて、次の3条の実行をちかひます

- 一、 神(仏)と国とに誠を尽くしおきてを守ります
- 一、 いつも、他の人々をたすけます
- 一、 からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います

## おきて

1. スカウトは誠実である
2. スカウトは友情にあつい
3. スカウトは礼儀正しい
4. スカウトは親切である
5. スカウトは快活である
6. スカウトは質素である
7. スカウトは勇敢である
8. スカウトは感謝の心をもつ

モットー ぞなえよつねに





# ベンチャースカウト隊

## 名称の由来

Venture = 冒険。

オーストラリアを始め、英国、ニュージーランドなどでも、当年代の活動をこのように呼称する。

「自分で考え、自分で行動し、自分に責任を持つ」ことが、ベンチャー活動の基本である。

## 活動の目標

- ・ちかひとおきての実践に励み、信仰を大切にしていることを示す
- ・さまざまな文化的及び社会的活動に参加し、自ら計画したプロジェクトを達成する
- ・野外活動をおして、自らの健康増進と価値観を築き、自己の確立を目指す
- ・指導者の援助を得て、さまざまな身体的活動に挑戦する
- ・他の人々への理解を深めるとともに、奉仕の精神を身に付け、団や他部門の隊への協力と地域社会に対する奉仕に努める
- ・グループ活動を通して、協調性とリーダーシップを養うとともに、社会の一員としての自覚と国際理解を深める







# ローバースカウト隊

## 名称の由来

Rovering = さまよう(ただし、目的を持って)。  
諸国をめくり、人生の遍歴を重ねることによって、  
自分の生き方を築くことをめざす。

## 活動の目標

- ・明確な信仰をもち、自己の所属する教宗派の行事に進んで参加する
- ・高度の野外活動により、心身を鍛錬し、スカウト技能を磨き奉仕能力を向上させる
- ・自ら課題を設定し、調査、実験及び実習によって、これを研究し、  
自己の生活を更に開発する
- ・他部門の訓練指導に協力し、奉仕する
- ・地域社会への認識を深め、地域の向上に貢献する
- ・国際社会の一員として、相互理解に努める





# 目指せ100Km制覇！！

## 闘魂注入!?



76年 悲劇は「これから始まった」...

七団リーダーの登竜門である百キロハイイクーそう！誰もが通ってきたらしい…。が、ここ数年計画しようという案は出るものの、実行に至っていない。今の七団にはこの距離を歩くぞという闘志は無くなってしまうのだろうか？いや、そんなことはない。風の便りによると、隊長でもまだ歩いていない方もいるのか？いないとか？闘魂注入が必要だよ。

### 中野7団記録 BEST3

- 1 木村隊長 記録なし
- 2 相澤隊長 記録なし
- 3 本澤隊長 記録なし

2005年12月 現在

この記事を書いている私も未経験者の内の一人なんです…。実際にこの距離を歩いた後はどうなるんでしょうかね？三日くらい歩けないんでしょうかね？気になるところです。もし、どうなるか気になって眠れない少年、少女、その他大勢の方々がいましたらぜひ、近くのリーダーに聞いてみてください！もし、『えっ？』みたいな反応をしたら歩いていない証拠です。みんなでたくさん見つけましょう！スカウトのみんなは今から百キロハイイクに向けて頑張ってる！

### 今日の占い 〇月×日(口)

乙女座	獅子座	蟹座	双子座	牡牛座	牡羊座
◎	△	△	◎	◎	◎
魚座	水瓶座	山羊座	射手座	蠍座	天秤座
◎	◎	◎	△	◎	◎

特集② 東連百キロハイイク 実際、運営に携わった齊藤君は、『寒くて、過酷な内容だったけれども、充実していた。今後はどうして行くべきか考えたい』と少し険しい表情だった。



### ローバー・オブ・ザ・リング

中野7団ローバー隊の現在の活動は、ローバー隊からボーイ隊への奉仕を中心に行っている。その他にもリーダーの勉強をするために、研修所(隊長になる勉強をするところ)への参加や、齊藤君のように東京連盟でのプロジェクトに参加したりしています。ですが、ローバー隊というのは、自分で企画をし、行動を起こせるのです。さあ、現在あまり活動していないローバー隊の諸君、いまこそ立ち上がろうではありませんか！



七団では随時、活発な子供たちを募集しています。外で思いっきり身体を動かして元気になるう！リーダーも負けないくらい元気だぞ！君の挑戦を待ってるよ！





BOY  
SCOUT  
NAKANO 7



# 活動の記録

あっ、あの時！  
あの顔！  
だあ〜！



SPIRITS FOREVER





### 発団～20周年(1965～1985)

・記念写真 (1966) カブ隊

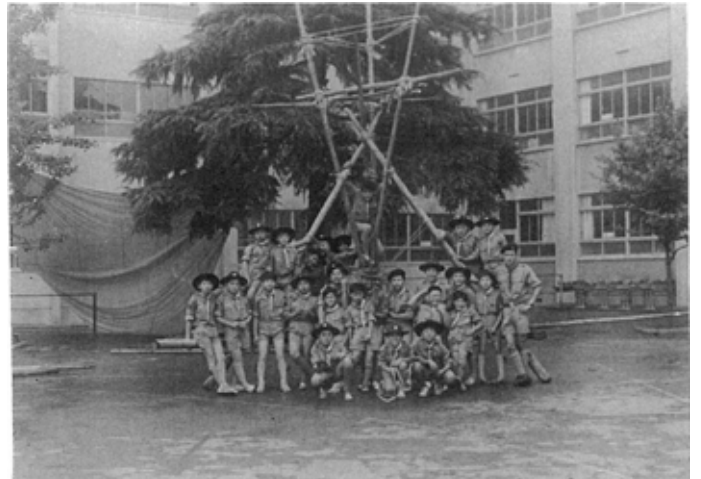
カブ隊発足後のおそらく一番最初の記念すべき写真です。

最前列に柴田隊長、最後列に福島副団委員長の姿が見えます。福島副団委員長によると、このときボーイ隊上進前であるにもかかわらず、ボーイ隊の制服を着用していたそうです。



・パイオニアリング(1969) ボーイ隊

雨の中でのパイオニアリング(信号塔)全員一丸となり、7団初の試みです。6時間もかけて、やっと出来上がり、記念撮影です。



・第5回日本ジャンボリー(1970) ボーイ隊

第5回日本ジャンボリーに参加した時の写真です。

各団からの混成隊だったのでなかなか大変だったのですが、みんな楽しくすごすことができました。

ジャンボリーは4年に一度開催されます。

次回は来年(2006年)、第14回日本ジャンボリー(14NJ)が石川県珠洲市で開催されます。





・夏季野営 (ハヤブサ班)(1971) ボーイ隊  
高橋隊長 (現団委員長) が多忙・遠方にて参加できないキャンプで、東京郊外の西多摩郡羽村で行われたキャンプでした。

現在の羽村でキャンプということは考えられませんね。

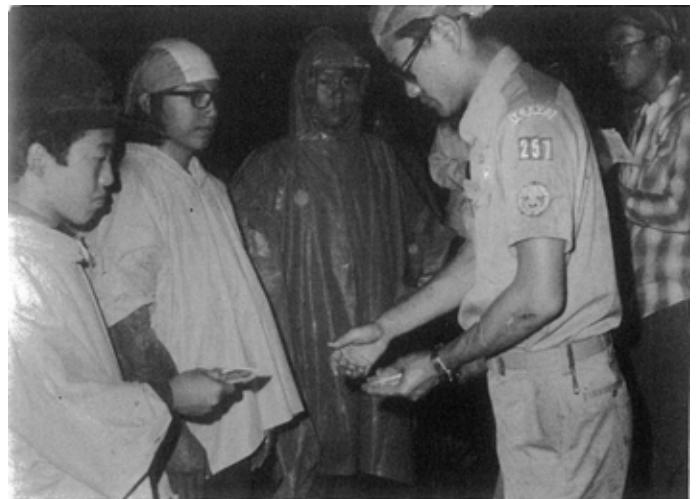
写真の左側で椅子に座っているのが服部 VS 副長、右から2番目が三澤 RS 隊長です。今の姿と見比べてみましょう。



・夏季野営 進級式 (1977) ボーイ隊  
この写真は、夏季野営のキャンプファイヤーのひとコマです。

楽しく歌って踊った後の進級式のカットです。みんな、高橋隊長 (現団委員長) から1級章を授与されています。

この写真のほとんどの人は現在も7団に所属しています。たまに見かけるかも知れませんが、さあ誰でしょう？



・夏季野営 夕食会 (1978) ボーイ隊  
キャンプの3日目の夜の夕食会の風景。

夕食会では、7団特注の鉄板を使って焼きそばを作っています。隊付やリーダーは暑さと煙と格闘しながら調理をしています。

(この鉄板は、現在ビーバー隊の吉村リーダーの父の特製鉄板で、現在も活躍しています。)





第1回東京キャンポリー (1979) ボーイ隊

これは、1979年に開催された第1回東京キャンポリーのひとコマです。キャンポリーは東京のボーイ隊がすべて集まり行われます。その中で7団は信号塔をたて、さらにこののぼりまで取り付け7団の雄姿をアピールしていました。

写真中にも"栄光の中野7団"という表記を見ることができます。



夏季舎営 和田峠 (1979) カブ隊

1979年のカブキャンプは、長野県和田峠で行いました。この一帯は先史時代から石器材料として使われていた黒曜石の原産地で、ミニハイキングでは持ちきれないほどの黒曜石が集まりました。

これは、鷲ヶ峰～八島湿原へのハイキングでの記念写真です。八島湿原は高原植物が多く鷲ヶ峰からの景色はとてもきれいでした。当時CS隊は6組までありました。





BOY  
SCOUT  
NAKANO 7

夏季舎営 雲照寺 (1982) カブ隊

1982年のカブキャンプは、那須高原の雲照寺で行いました。

夜のきもだめしは、真っ暗な参道と墓地を抜ける納骨堂までの恐怖のコースで、泣いてしまったスカウトもいました。

しかし、キャンプファイヤーではインディアンの衣装で歌ったり、踊ったりして、楽しい思い出ができました。



春季野営 水無川 (1985) ボーイ隊

1985年の春季野営の集合写真です。

鈴木BS隊長(当時)を中心に総勢22名でのキャンプです。神奈川県丹沢の下部に流れる水無川(水はあるんですけど)の川原で行われました。前列左から2人目のスカウトは、前日のキャンプファイヤーで行われた進級式で複数の特修章をもらい、自慢気に写真撮影に望んでいます。



SPIRITS FOREVER





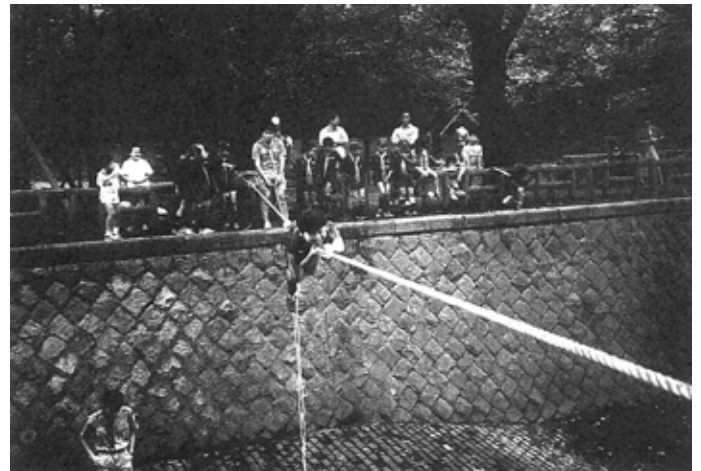
20周年から30周年 1985～1995

レンジャー訓練隊集会 1988 カブ隊

1988年9月18日の隊集会は、秋のイベント  
妙正寺川横断のレンジャー訓練を行いました。

命綱をつけていても、この高さは結構怖い！  
片足を伸ばしうまくバランスが取れれば少し  
ぐらい揺れても大丈夫。

余裕の？笑顔も見えます。現在は川を渡るこ  
とはできませんが、伝統のレンジャー訓練は、  
毎年行っています。



ルパ～ン3世 夏季舎営 (1990) カブ隊

カブキャンプのハイキングでルパンに変装  
したスカウトの会話を盗み聞き。

ルパン 『お宝の地図だぜ～！』

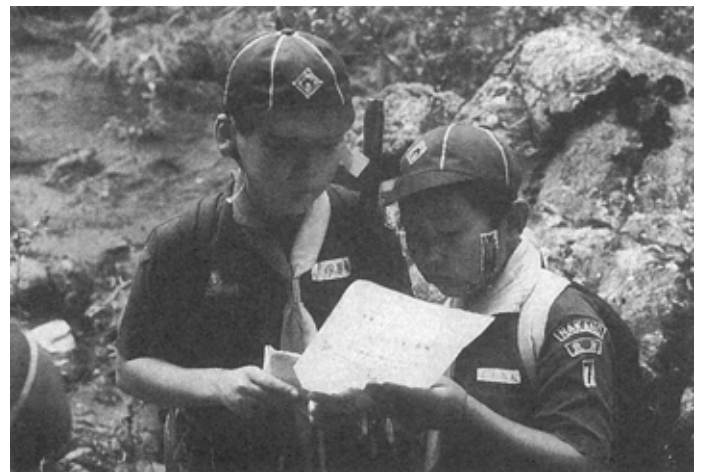
ルパン 『こいつはすげ～！！』

ルパン 『ところでこの地図読める？』

ルパン 『・・・。』

ルパン 『現在地がわからない...。』

モミアゲを付けても地図は読めるように  
ならないみたいでした。



移動野営 富士五湖 (1990) シニア隊

1990年のシニア隊(現ベンチャー隊)の移  
動野営の写真です。

この年の移動野営は富士五湖制覇が目的で  
した。山中湖からスタートし、河口湖、西湖、  
精進湖、本栖湖を経由し富士宮までの約85km  
の工程でした。

野営地から出発前の写真ですが、実は恐怖体  
験後の写真です。前夜に「隣のお墓からのうめ  
き声」が聞こえた、と証言するものが複数名い  
ましたが真相は不明です。







・グリーンバードトレーニングキャンプ ボーイ隊

班長・次長を対象に、技能を磨くために開催される、グリーンバードトレーニングキャンプの食事の風景です。

キャンプでは、各自で食事を作成、一人でシェルタ作り、などを行い、班長・次長として、班員を引っ張るべく技能に磨きをかけてゆきます。

写真には表れませんが、前日の夜には「非常呼集」をかけられています。



・夏季野営 梨平キャンプ場 ボーイ隊

キャンプの最終日の朝礼後に撮影した記念写真ですが、カメラマンである三澤副長（現ローバー隊長）がタイマーをかけて隊列に向いましたが、無常にもその途中で「カシャ」とシャッターが・・・。

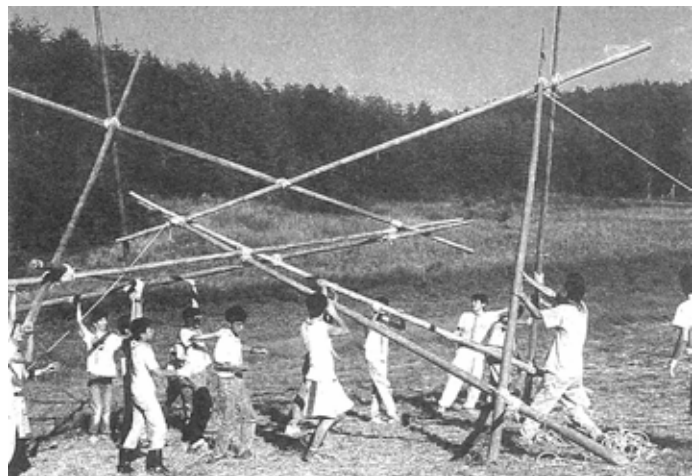


・夏季野営 中山高原 ボーイ隊

この年の夏季野営のパイオニアでは、信号塔を製作しました。写真は信号塔を立ち上げているところです。

スカウト全員で力を合わせて懸命に引っ張り、押し上げています。

みんなの力を合わせて立ち上げた信号塔の上からキャンプサイトを見下ろした風景からは、なんともいえない達成感が得られます。





## 1996年の活動

・パイオニアリング ボーイ隊  
毎年、夏キャンプ前になると、ボーイ隊はパイオニアリングをします。

この年の荒縄は質が悪く、縛るとプチプチに。作業が進まずキャンプ前に皆不安顔に…。実際に、キャンプで三脚型の信号灯を立てた際に、軸部分の荒縄が切れて組上げに数回失敗。その部分を担当していた、「三村君」にちなみ切れる事を「みむる」といい、流行語になりました。



・夏季野営 in 中山高原 ボーイ隊  
中山高原、思い出すのは夕食会です。

7団サラダ、揚げり切っていない唐揚げ、やたら塩辛い焼きイカ、粉っぽいお好焼き、減らないフルーツポンチ...etc. 量に圧倒され、大量の夕食処理を班長次長が一生懸命こなすなか、完食できない脱落者が続出。焼きイカはほぼ全員が、味噌汁に入れながら食べるという愚行を犯し、しょっぱさで自滅したという話もありました。しょっぱくなければ、皆完食できたのでは？という思い出です。



夏季野営 in 中山高原 ベンチャー隊  
ファイヤーでは、本澤数義君（BS隊副長）が、昼のハイキングで足を骨折、一人テントサイトで休んでいました。

当時のVS隊(旧シニア隊)メンバー（左から、荒井、広瀬、増田、栃木、三村）の5名が、面白い寸劇を披露。上半身裸で、ハミングをしながら、突然「アフリカの!!ジャングルに!!バナナがひつとつう~!!」と芸を披露し皆を圧倒。爆笑の渦を巻き起こしました。





## 1996～97年の活動

雨の隊集会 in 哲学堂                      ボーイ隊  
哲学堂公園での隊集会のひとつコマです。

前日の雨により、ひざの高さくらいまで水がたまっている中でゲーム（ワンツープルドッグ）をやっているところです。

写真には写っていませんが、最後の標的である本澤数義くん(現 BS 副長)を捕まえて水に落とそうと待ち構えています。後ろで切り株にしゃがみこんでいる小林隊長はスカウト同士の戦いを楽しそうに見ています。



フレンドシップ（相模原）                      ボーイ隊

米軍相模原補給廠にて開催された日米フレンドシップパトローリーのひとつコマです。

当日は豪雨に見舞われ、テントの中はグチャグチャに。この写真は撤営時のもので、グチャグチャの状態が見て取れます。

米軍基地内での行事なので、アメリカの雰囲気を感じながらのキャンプでした。



春季野営    ベンチャー隊

ベンチャー隊の炊事章獲得を目的とした春季野営のひとつコマです。図鑑をみながら、採取した「草」を天ぷらにして食べました。「アザミ」を食べたところ、トゲにより、口の中が傷だらけになりました。ベンチャー隊の活動はスカウトが主体的にプログラムを計画しているので、リーダーはスカウトのペースについてゆくのが大変でした。





## 1997年の活動

### ・夏季舎営 in 釜額 カブ隊

釜額へ出発です。

小雨のなか、カメラの前では元気100倍！  
吉田隊長から釜額の妖怪の怖い話を聞きちよ  
っとビビってるカブ隊の面々です。  
さあ、出発だ！



### ・ナギンデー カブ隊

西湖に伝わる"ナギンデー"を探す、という、  
趣向のキャンプ。

ナギンデーは幻想的な火の祭りです。キャン  
プファイヤーでキャンプも終わりに近づきま  
す。

夜の怖さにも慣れてきたけど、やっぱり妖怪  
が怖いなー。



### ・舎営ハイキング カブ隊

富士山をバックに"ポーズ"

つらかったけど気持ちいいね！頂上まで上が  
ったので、後はくだりですら楽しん！ さあ、昼ご  
はんだよ。





## 1998 年の活動

・12NJ in 森吉高原 ボーイ隊  
1998 年に秋田県の森吉高原にて開催された第 12 回日本ジャンボリーの現地出発前のひとコマです。当時の BS 隊のスカウト 6 名全員参加しました。また指導者として服部副長と小林隊長が参加しました。真ん中中央の矢崎勲くんが腰にぶらさげているのが「パイオニア章」(所定のプログラムをクリアするともらえる)として授与されたシェラカップです。(斉藤・矢崎両名の帽子は他地区と"フェジ"したため、他のスカウトと違っていません。)



・中野祭りパレード 団行事  
この年のパレードは、前年までのコースと違うコースとなりました。ビーバースカウトはパレードにちょっと戸惑い気味でしたが、ゴールの中野区役所まで、手をつなぎながらも立派に歩きました。ゴールでヤクルトをもらって"ニッコリ"です。



・オバーナイトの朝 ベンチャー隊  
毎年恒例の「初日の出オーバーナイトハイキング」のひとコマです。この年は千葉県浦安市を目指して歩きました。この写真はベンチャー隊の集合写真です。この写真の撮影前にベンチャー隊の各スカウトは「今年の抱負」を海に向かって大声で叫んでいました。写真一番左の相澤隊長もスカウトとともに叫びました。その内容は、毎年恒例の「今年こそ結婚するぞ〜！」だったそうです。





## 1999年の活動

### ・もちつき          団行事

ほらほら、しっかり狙いを定めて！  
リーダー！もちを返すとき、水をつけすぎだよ。  
餅つきでは、毎回7団オリジナルの "ベチョベチョ" で"臼のかけら入り"もちが出来上がります。でも、スカウトの中にはもちつき初体験というスカウトも多く、満足げです。



### ・春季野営ハイキング          ボーイ隊

武蔵五日市で行われた、春キャンプでのひとコマです。ハイキング中の昼食前の課題をこなしています。ちゃんとできているのかな？ 早く解かないと、昼食の時間がなくなっちゃうぞお！

また、矢崎くんの右肩に輝くコンドル班の班別章は、前班長の坂本くんがデザインし、オーダーメイドで製作したもので、とても手の込んだ品物であったそうです。



### ・夏季野営に出発！          ボーイ隊

この年の夏季野営は長野県の湯の丸高原でした。この写真は出発時の集合写真です。この年の夏季野営は5日間のうち初日の設営と最終日の徹営のほかは、ずっと雨が降っていました。また4日目の途中で、キャンプ場への取付道路が崩れ、キャンプ場への通行が分断される状況になりました。キャンプ場の懸命の復旧作業のおかげで、予定通り5日目に帰ることができた、という過酷な野営でした。





## 1999～2000年の活動

### ・夏季野営 in湯の丸高原 ボーイ隊 (ワイドゲーム)

前頁につづき、夏季野営の写真です。ほぼ全期間が雨に見舞われた野営中の数少ない(?)晴れ間でのワンショット。みんな、ゲーム前で”きれい”(汚れていない)ですが、地面はドロドロです。この後には、ハット取りというゲームが行われ、みんなでドロドロの地面と戯れました。

7回ってやっぱり”WILD”ですねえ。



### ・夏季野営 in湯の丸高原 ボーイ隊

夏季野営の閉会セレモニー終了後に”ハイチーズ”、これから帰途につきます。帰ったら、蛇口をひねれば水が出る、お母さんがご飯を用意してくれる…都会での生活に自然と感謝するのかな?よくよく見ると、出発前の写真より、ほんの少しだけ、逞しい顔つきになっているように見えませんか?



### ・CS野営 in上佐野 カブ隊

カブ隊で”初”の野営でのキャンプでした。スカウトにとっては、初めてのテント生活、初めての野外料理、と戸惑う事もあったけど、一生懸命がんばりました。キャンプファイヤーの出し物はとっても緊張して、大きな声が出せませんでした。でも、来年こそ・・・はがんばってね。サイトでは、蚊でもなくブヨでもない摩訶不思議な虫が大量発生し、その虫に刺され大変な目にあったリーダーもいました。









## 2001 年の活動

・パイオニア de 川遊び ボーイ隊  
夏季野営のパイオニアのひとコマです。

この年の夏季野営は秩父の定峰川キャンプ場でおこなわれました。プログラムは荒川まで行き実施しました。

イカダの骨を丸太で作し、ポリタンクを取り付け、浮きの代わりにしています。炎天下で作成し、進水式をしたところ。流れがきつい部分もあり、リーダーの中には流れに飲み込まれている人もいました。



・夏季野営でのバーベキュー ボーイ隊

パイオニアの後にいったバーベキューのひとコマです。鶏肉の串焼きや、野菜の串焼き、締め焼きそばと、バーベキューらしいバーベキューでした。

天候にも恵まれ、川原でのバーベキューです。パイオニアで作成したいかだも順調に出来上がり、乾杯！ポーズの写真です。高橋団委員長の水着姿もなかなか・・・、ですね。



・オーバーナイトキャンプ ボーイ隊

毎年恒例のオーバーナイト、例年は海へと向かうのですが、今年は秩父の山奥での寒中野営で新鮮なキャンプ体験ができました。夜にはマイナス5 というさむ～い気温で、食事の肉が凍りつき切れない、水をこぼしたテーブルは、スケートリンクさながらに平滑に凍る、という体験をしました。初日の出を見たときにサンブラザが見えたことをよく覚えています。





## 2002年の活動

### ・隊集会のひとつま ビーバー隊

サヨナラ会の劇の練習を始めます！

このころから、ビーバー隊のスカウト数が増えてきました。(平均台にすわりきれないですね。)みんながカブ隊に上進するのが楽しみです。



### ・落合公園へ小ハイク ビーバー隊

追跡ハイキング(" "[進めのサイン]や"×"[進むなのサイン]を見つけながらポイントを目指すハイキング)で、落合公園を目指しました。

公園では、大きな滑り台やターザンロープでたくさん遊びました。

これから新井薬師公園に戻りますが、まだ、元気かな？



### ・着く前に疲れちゃった？ ビーバー隊

水遊びハイキングに出発！

これから電車に乗るのに、もうすでに疲れちゃった？ かな。

目的地は、杉並区の井草森公園です、川のせせらぎや滝で遊びました。





## 2002 年の活動

・夏季舎営 in 清東園 ビーバー・カブ隊  
今年の夏キャンプは、カブ隊・ビーバー隊が同じ場所で行いました。

川の横のバンガローでの舎営だったので食事はすべてリーダーの手作り！

みんな、おいしかった？

Tシャツも作りましたが、今はパジャマそれともゾウキン？

(孔が食事をするすると”リス”になることを発見。)



・夏季舎営 in 清東園 ビーバー・カブ隊

キャンプ後の記念写真です。みんな疲れた表情も見せずに笑顔で「ハイ、チーズ！」このキャンプで吉田隊長は干してあった自分の洗濯物を取りにいったときに、川の中に落ちてしまい、せっかく乾いた洗濯物がまた濡れてしまいました。

「意 - 味ないじゃーん。」



・サヨナラ会 in 薬師公園 団行事

7団の1年を締めくくるサヨナラ会です。この年は、薬師公園にキャンプサイトを展開しました。

児童館の左側に山型に広がっているのが伝統の”大フライ”です。立てるのが”ひと苦労”の代物です。野営時には、雨天時の集合場所として、また、全員での夕食会の場所として使用されます。





## 2003年の活動

### ・サヨナラ会 団行事

毎年最後の集会のサヨナラ会。プレゼント交換は何が来るのかわからないドキドキワクワクのイベントです。

写真は吉田なつ美（現ボーイ隊）がプラモデルを手に入れた瞬間です。不満ななつ美は「誰かとりかえて〜」と嘆いています。斎藤副長が説得していますが、果たして結果はどうだったのでしょうか？



### ・親子ハイキングカブ・ビーバー隊

親子ハイキングでのワンツープルドックというゲームのひとつ。恐怖に立ち向かうゲームとしては7団史上で最高のゲームです。ここ数年、激しい戦いが見られなくなり、少しさびしいです。みんなおとなしいねえ。保護者の方も、外から見ていて昔の血が騒いだら、童心に戻りゲームに参加してください。



### ・親子ハイキングカブ・ビーバー隊

#### 「ハイチーズ」

親子ハイキングでの集合写真です。昭和記念公園でミニハイクを行い保護者にも疲れの表情が・・・

でも、カメラを向けた瞬間にそんな疲れはどこへやら。

皆さん、いい顔で写ってますねえ！

次回の参加も心よりお待ちしております。





## 2003 年の活動

### ・松ぼっくりのゴルフ ビーバー隊

松ぼっくりを探してクラブで打ちながら、薬師公園の小山の周りを回るゲームをしました。なかなか思うところに飛ばず、スカウトの興味は、最後の落葉を掻き分けたり、どんぐりを拾ったり、と違う方に移りました。自然の中にいるとスカウトは色々な発見をするなと感心する隊長でありました。ゴルフの企画が悪かったのかなぁ・・・。



### ・ふれあい運動会 ビーバー隊

中野区ふれあい運動会のパン食い競争に参加しました。せっかくパンを取ったのですがリーダーから「家で食べなさい!」といわれちゃいました。でも、パン食い競争はみんな初挑戦だったため楽しかったですね。待機場所でおばあさんの車椅子を押してあげた稲村元希君が感謝されていました。かっこよかったぞ!



### ・むかしの遊び ビーバー隊

リーダーたちから子供のころの遊びを教わろう! ということで馬乗りをやっているところです。馬の組み方、飛び方、ルールなど順を追って教えてもらいました。

何度も練習し、やっとゲームらしくり、最後に、吉川翼君が馬に乗り馬をつぶした決定的な瞬間を写した1枚です。

この後、リーダーも馬を組みましたが、木に犬がついており、ちょっと「げんなり」でした。





## 2004 年の活動

### ・ピロファイト at サヨナラ会 団行事

最近、7 団で密かなブームが巻き起こっています。それが「ピロファイト」

ルールはとってもシンプルで、丸太の上にまたがって、寝袋を武器に相手を落とす、というものです。観戦していても熱くなれる、というのがこのピロファイトの人気の秘密のようです。

「雄祐～！ 反撃だぁ！」

勝負の行方はどうだったのでしょうか？



### ・夏季舎営のキャンプファイヤー カブ隊

キャンプファイヤーでの点火の場面です。今回はカブ隊のくまスカウト全員でたいまつをもって点火しました。

が、ここで事件発生！

たいまつが短くて手が「熱～い！」

くまスカウトがみんな嘆いていました。



### ・料理隊集会 カブ隊

カブ隊の料理隊集会のひとつコマ。各組に分かれての調理でカレーを作りました。スカウトは包丁を使い慣れておらずリーダーはひやひやしながら見守っていました。しかし食事時には、写真の寸胴鍋いっぱいにしたカレーをペロリと完食！

辛いものが苦手なビーバー隊の滝沢副長は「・・・カレー」と叫んでいました。





## 2004年の活動

### ・サヨナラ会 団行事

人数が増えたので久しぶりに新井小学校の体育館をお借りして、サヨナラ会を行いました。保護者の方もゲームに参加いただき全員一丸のゲーム大会を実施しました。

これは、「粉あめ」のゲームの一場面です。小麦粉の中にある飴を手を使わずに探しています。保護者の中にも、スカウト同様に「ロマンスグレー」になっている方もいらっしゃいました。スカウトだけでなく保護者の方も「元氣！」ですねえ。



### ・ダンパ作り ビーバー隊

地域の子ども会のイベント「ダンパ作り」に飛び入り参加させてもらいました。カマドが小さく、みんなでいっせいにダンパを「焼く」となかなか焼かず、一人で焼くと焦げてしまう、というビーバースカウトにはちょっと難しいかな？

でも、自分で焼いたダンパは、真っ黒でも、うま焼けてなくても、おいしいね！蜂蜜やジャムといった甘いのがやっぱり人気ですね。



### ・上進ハイク カブ・ボーイ隊

江戸川総合レクリエーション公園の中の富士公園にて上進キャンプ・ハイクを行いました。カブ隊のくまスカウト（上進スカウト）は前日からキャンプを行い、その他のスカウトは当日ハイキングで現地に向かいました。

今回の上進式は、芝の小山の斜面でボーイ隊のスカウトが上進するカブ隊のスカウトを引き上げる、という趣向で行われました。





## 2005年の活動

### ・カントリー大作戦 団行事

新井薬師公園から新井交差点までの中野通りの空き缶を拾う、その名も「カントリー大作戦！」

以前より、空き缶は減りましたがペットボトルが増えました。それでもゴミ袋にいっぱい空き缶が落ちています。

みんなで中野の町をきれいにして  
心もさわやかに！



### ・赤い羽根の共同募金 団行事

「赤い羽根の共同募金にご協力をお願いしまあーす。」と毎年10月1日の都民の日に、奉仕活動の一環として共同募金に参加しています。

最初はなかなか声が出なかったスカウトもだんだんと声が出るようになり、終盤には元気なスカウトの声がこだまします。

募金をされる方も、スカウトの元気な声の前に、喜んで募金をされて行かれます。



### ・おにぎり隊集会 ビーバー隊

3月には恒例の「料理隊集会」を実施しています。今年はおにぎりです。

手につける水の量やお椀に入れるご飯の量を自分の手にあわせ調整するのが難しい！

握った後も、お皿に乗せると崩れてしまったり、硬くなりすぎてしまったり、と色々な「おにぎり」ができましたが、みんな残さず食べていました。

今回は嫌いな梅干を抜いたおにぎりだったけど、食べられるようになるうね！







## 2005 年の活動

### ・スキー in 霧ヶ峰高原 ボーイ隊

快晴のもとで、「ハイ！チーズ！」  
おっと、みんな手ぶらでスキーかな？  
みんな初心者で、最初は直滑降(!?)で爆走して  
ました。

が、ちょっと慣れると、何とかスピードをコ  
ントロールし曲がれるようになりました。

しかし、最後まで、直滑降、拳句の果てに高  
速でクラッシュ！のスカウトもありました。も  
ちろん今も元気です。



### ・オーバーナイトハイク for 若洲 ボーイ隊

今年のオーバーナイトハイキングの写真で  
す。実は表紙にも使われています。

中野から江東区の若洲海浜公園まで徒歩で向  
かい、初日の出を迎えた後の新年最初のセレモ  
ニーを実施しています。

1月1日の朝に半袖の制服でセレモニーを実  
施しています。リーダーの中にも、「何がつら  
いって、眠さと半袖でのセレモニー」というも  
のがあります。

がんばりで体も心も鍛えましょう！



### ・春季野営（宮ヶ瀬湖）ボーイ隊

「うーん、重くて立てない！」

「じゃあ、手伝うから立ち上がろう！」

春キャンプでは、自分たちの備品を分配した大  
きな荷物を自分たちで運んでゆきます。

過去には、荷物が 30kg を超えてしまうよう  
な荷物もあったとか。

うーん、スカウト自身よりも荷物のほうが重  
いかも・・・。





BOY  
SCOUT  
NAKANO 7

# 付録

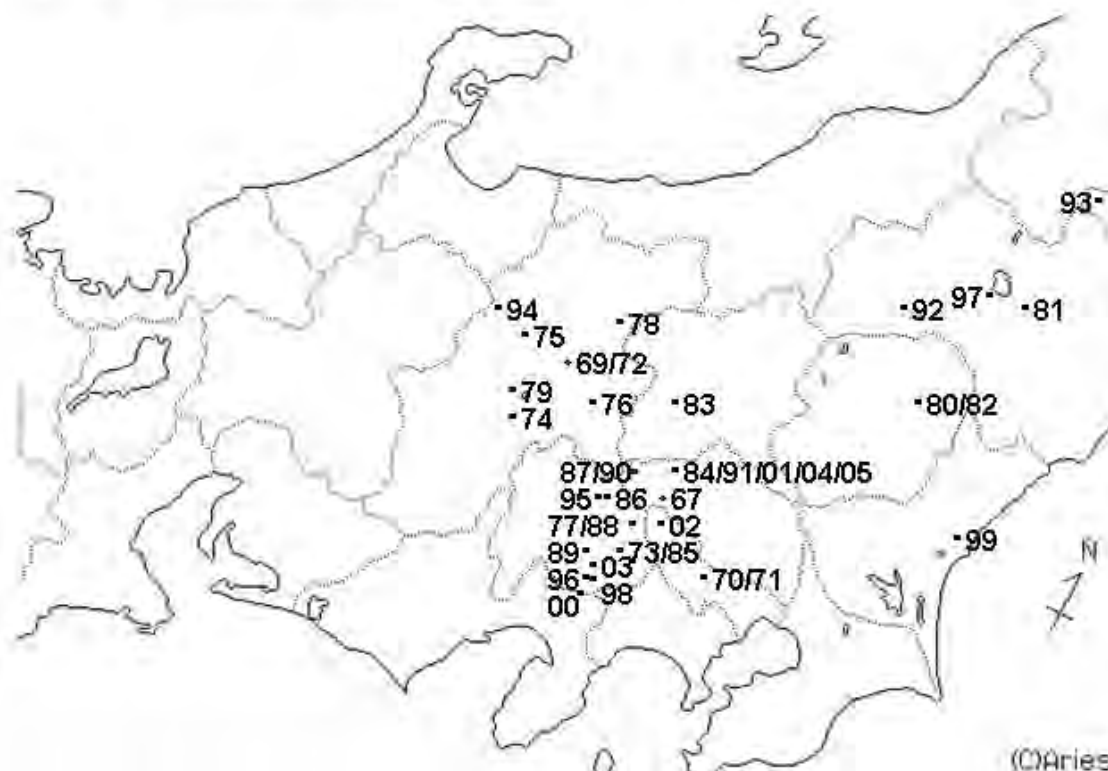


SPIRITS FOREVER





§ CS歴代キャンプ地

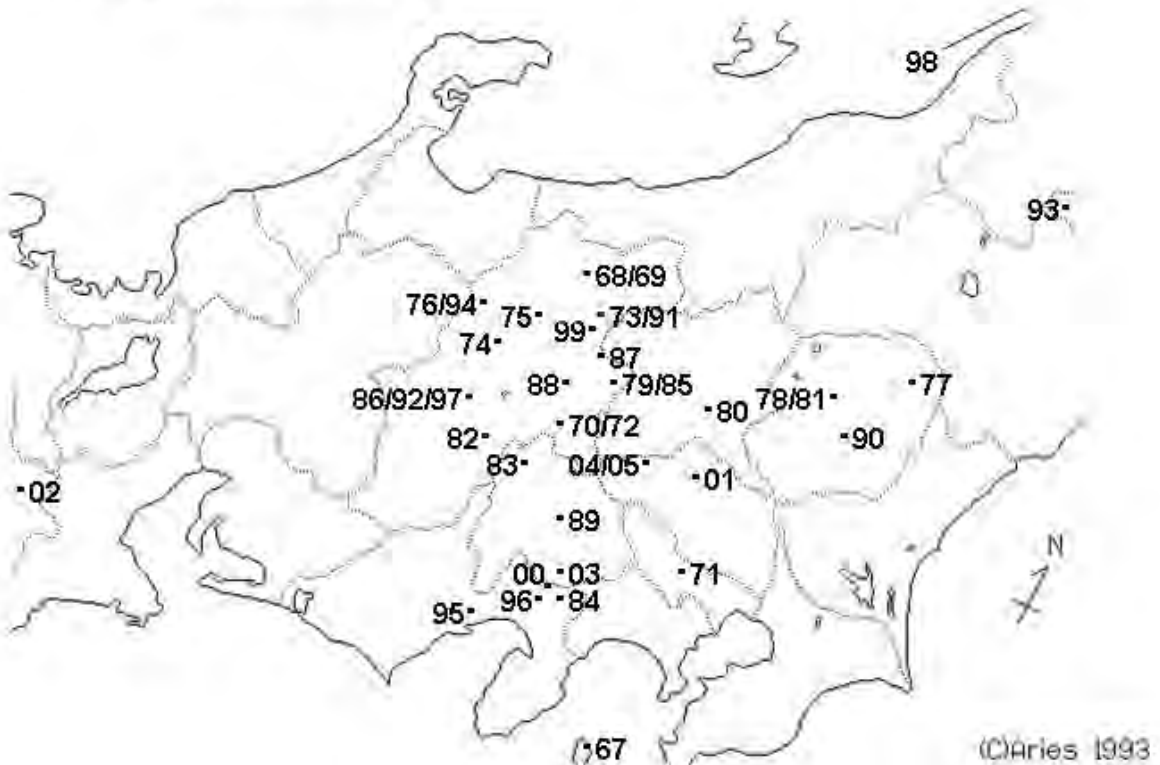


年	場 所	年	場 所	年	場 所
1967	武 甲 山	1980	西那須野	1993	南 蔵 王
1968	不 明	1981	五 色 沼	1994	中 山 高 原
1969	保 科	1982	西那須野	1995	丹 波 山
1970	羽 村	1983	上 野 村	1996	道 志
1971	羽 村	1984	秩 父	1997	針 生
1972	保 科	1985	道 志 川	1998	釜 額 立
1973	道 志	1986	清 里	1999	日 立
1974	鷺 が 峰	1987	栃 本	2000	上 佐 野
1975	八 坂	1988	丹 波	2001	秩 父
1976	小 諸	1989	下 部	2002	奥 多 摩
1977	丹 波	1990	栃 本	2003	河 口 湖
1978	菅 平	1991	秩 父	2004	秩 父
1979	和 田 峠	1992	針 生	2005	秩 父





§ BS歴代キャンプ地



年	場所	年	場所	年	場所
1967	大島	1980	相馬が原	1993	南蔵王
1968	戸隠	1981	小倉山	1994	中山高原
1969	戸隠	1982	入笠山	1995	清水
1970	野辺山	1983	白州	1996	御胎内
1971	羽村	1984	御殿場	1997	梨平
1972	野辺山	1985	清水	1998	※秋田
1973	湯の丸	1986	梨平	1999	湯の丸
1974	鷲が峰	1987	南軽井沢	2000	上佐野
1975	姫木平	1988	蓼科	2001	定峰
1976	中山高原	1989	三井の森	2002	※大阪
1977	奥塩原	1990	今市	2003	河口湖
1978	小倉山	1991	湯の丸	2004	秩父
1979	清水	1992	梨平	2005	秩父

※は日本ジャンボリー参加のため、夏季野営は開催していない





§ BS歴代優秀班

年 度	班 名	班長氏名	キャンプ地
1970	タイガー	福嶋 和美	長野県 野 辺 山
1971	タイガー	武藤 敦人	東京都 羽村
1972	タイガー	窪寺 眞孝	長野県 野 辺 山
1973	ホーク	鈴木 信之	長野県 湯の丸
1974	ホーク	武藤 郁人	長野県 鷲が峰
1975	バッファロー	雨宮 有	長野県 姫木平
1976	バッファロー	雨宮 有	長野県 中山高原
1977	ペガサス	野尻 憲彦	長野県 奥塩原
1978	スワロー	佐藤 光信	栃木県 小倉山
1979	ペガサス	窪寺 健太郎	長野県 清水
1980	スワロー	上野山 聖基	群馬県 相馬が原
1981	スワロー	藤巻 伸介	栃木県 小倉山
1982	コンドル	服部 健一	長野県 入笠山
1983	スワロー	吉川 和雄	山梨県 白州
1984	スワロー	小山 賢吾	山梨県 御殿場
1985	スワロー	上村 健一郎	長野県 清水
1986	ペガサス	小林 央之	長野県 梨平
1987	ペガサス	小林 央之	長野県 南軽井沢
1988	ペガサス	吉田 翔馬	長野県 蓼科
1989	コンドル	花井 久徳	山梨県 三井の森
1990	コンドル	花井 久徳	栃木県 今市
1991	ペガサス	中里 竜司	長野県 湯の丸
1992	ペガサス	京野 吉剛	長野県 梨平
1993	ペガサス	京野 吉剛	宮城県 南蔵王
1994	ペガサス	長沢 俊介	長野県 中山高原





1995	ペガサス	栃木 透	長野県 清水
1996	スワロー	本澤 数義	静岡県 御胎内
1997	コンドル	本澤 義徳	長野県 梨平
1998	コンドル	吉川 大季	12NJ(秋田)
1999	コンドル	矢崎 英雄	長野県 湯の丸
2000			群馬県 上佐野
2001			埼玉県 定峰
2002			13NJ(大阪)
2003			山梨県 河口湖
2004			埼玉県 秩父
2005	コブラ	木村 由佳	埼玉県 秩父

空欄は班がないため表彰はなし





## 中野7团团歌

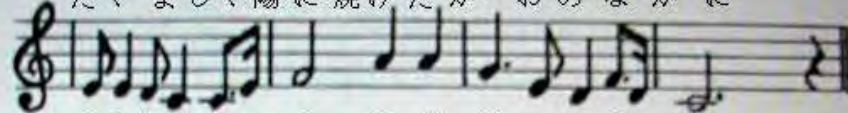
作詞：高橋宏人

作曲：鈴木信之

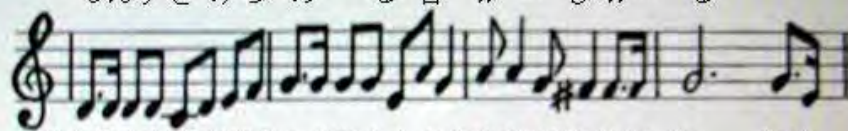
- |  |  |
|--|--|
| 1. たくましく陽に焼けた 顔の中に<br>真理を見つめる 目が光る<br>鍛えた身体で挑戦しよう<br>未知の世界に<br>我ら手を取り 共に進もう<br>栄光の7団 7団 中野7団 | 2. “そなえよつねに”の 心の中に<br>決断行う 勇気が見える<br>奉仕の心で共に創ろう<br>平和な世界を<br>我ら手を取り 共に歩もう<br>栄光の7団 7団 中野7団 |
|--|--|



たくましく陽に焼けたかーおのなかに



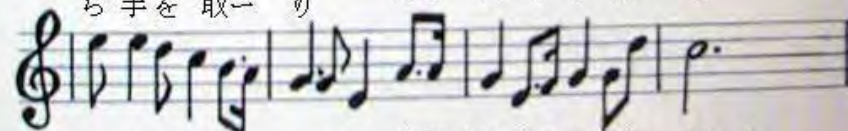
しんりをみつめ る目 がーひかーる



きたえたからだでちょうせんしよう未知のせかいに われ



ら手を取ーり とも にすすも う



えいこうのな なんだん ななだんなかのなな だーん





<最後のメッセージ リーダー>

Baden-Powell's Last Message To Leaders

To my Brother Scouters and Guides:

Cecil Rhodes said at the end of his life ( and I, in my turn to feel the truth of it), "So much to do and so little time to do it". No one can hope to see the consummation, as well as the start, of a big venture within the short span of one life-time.

I have had an extraordinary experience in seeing the development of Scouting from its beginning up to its present stage. But there is a vast job before it. The Movement is only now getting into its stride. (When I speak of Scouting I include in it Guiding also). The one part which I can claim as mine towards promoting the movement is that I have been lucky enough to find you men and women to form a group of the right stamp who can be relied upon to carry it on to its goal. You will do well to keep your eyes open, in your turn, for worthy successors to whom you can, with confidence, hand the torch. Don't let it become a salaried organization: keep it a voluntary movement of patriotic service.

The Movement has already, in the comparatively short period of its existence, established itself onto a wide and so strong a footing as to show most encouraging promise of what may be possible to it in the coming years. Its aim is to produce healthy, happy, helpful citizens, of both sexes, to eradicate the prevailing narrow self-interest, personal, political, sectarian and national, and to substitute for it a broader spirit of self-sacrifice and service in the cause of humanity; and thus to develop mutual goodwill and co-operation not only within our own country but abroad, between all countries. Experience shows that this consummation is no idle or fantastic dream, but is a practicable possibility if we work for it; and it means, when attained, peace, prosperity and happiness for all. The "encouraging promise" lies in the fact that the hundreds of thousands of boys and girls who are learning our ideals today will be fathers and mothers of millions in the near future, in whom they will in turn inculcate the same ideals, provided that these are really and unmistakably impressed upon them by their fathers of today.

Therefore you, who are Scouters and Guiders, are not only doing a great work for your neighbour's children but are also helping in practical fashion to bring to pass God's Kingdom of peace and goodwill upon earth. So, from my heart, I wish you God-speed in your effort.

Baden-Powell

スカウト指導者に・・・・・・・・

セシル・ローズが死に直面して ”ああ！ われなさんとすること多し、されど時はそれを許さず・・・・・・・・” われ自らも同様なことをいいたい。

短い人生において大きな仕事を始めようとする者は、その最初には消耗を感じない。

スカウティングの開始当初から今日まで貴重な体験をしてきた。この運動の前途を見るときに大きな使命のあることを痛感する。この運動は今や躍進の段階に達した。

この運動を進めていく上において、諸君のごとき成人指導者の協力を得たことを感謝しなくてはならない。

諸君は常に目を見開いてよき後継者をさがし、かがり火を受けつがせねばならない。この運動は愛国精神による任意の運動であり、俸給取りの組織としてはならない。

この運動は短期間に大きな支持を得て伸びてきた。健全にして幸福なる社会を構成するために、狭量にして利己的・政治的なものを除去し、犠牲的・人類愛に奉仕してきた。

人々の善意と協力により国家相互の協調によって伸展してきた。

過去の経験により、平和と幸福に貢献してきたことが示される。そして大なる繁栄につくすことができる。

将来父となる青少年のために、大きな貢献をしているのである。

指導者たちは、神の命に従い、世界平和のために偉大なる奉仕をしているのだという自覚をもって努力されたい。余は諸君に衷心より敬意を表したい。

ベーデン - パウエル・オブ・ギルウエル

これは1941年1月8日にベーデン - パウエルがなくなった後、彼の書きものの中から発見された







BOY  
SCOUT  
NAKANO 7

<中野7団(旧:257団) 発団 五周年>



<中野7団(旧:257団) 発団 三十周年>



SPIRITS FOREVER





BOY  
SCOUT  
NAKANO 7

### 編集後記

ここ数日、例年にない早い雪の知らせに日本中が凍えた。雪の影響も心配だが、この時期が良いのは、空が美しいことだ。夜空の星の輝きは格別だし。また、日中の澄み渡った空も清々しく、どこか身が引きしまる。中野七団のスカウト運動も、40年となった。運動とはよく言ったもので暑い時も寒い中でも、40年の間 中野七団をみんなで支え歩いて来たと思う。顧みれば10年前の夏の日、青空の下での三十周年式典（1995年7月23日）で「子どもの夢を実現するため団を発足した」と語った故高橋園子（元団委員長）の澄んだ高い空のようなスピリッツ（SPIRITS）は、いつまでも我々の中で生き続けている。さあ、五十周年に向け“キックオフ（Kick Off）！！！”

< 40年の間にはこんなことも >



< 40周年記念誌編集中の一駒 >



ボーイスカウト日本連盟 東京連盟 中野 第7団 40周年記念誌

2005（平成17）年12月23日発行（10年毎：不定期）通巻第三号

発行 : ボーイスカウト日本連盟 東京連盟中野第7団（旧：257団）

発行人 : 中野第7団40周年記念誌発行実行委員会

編集部員 : 中野第7団リーダー

デザイナー : 坂本正義

印刷所 : 257団屋根裏印刷所

ホームページ : <http://bs7.root-m2.com/>

Copyright 2005 BS Nakano7 All rights reserved. 本記念誌からの無断転載を禁じます。

乱丁本、落丁本はお取替えいたします。7団事務局（03-3386-3048）

SPIRITS FOREVER





BOY  
SCOUT  
NAKANO 7

SPIRITS FOREVER



# SPIRITS FOREVER

